

精神障害のある方の雇用を考える

③当事者の思い、会社の思い

障害福祉サービスである就労移行支援事業所、(創)シー・エー・シーでは、精神障害のある方の職業リハビリテーションと就労支援サービスを提供しております。

当事業所の役割は、精神障害という困難な課題を与えられた方々と一緒に、その課題について考え、改善・軽減し、本人の希望や願いを実現すべく支援することです。そして、生活や働く上での工夫やコツをみつけ、練習し、新たな方法にチャレンジする気持ちや勇気をもって、一步を踏み出す力をつける場所でもあります。

Aさんの事例

数年前、当事業所を利用され、就職されたAさんの同じ仲間に向けた体験談をご紹介します。

私が今の仕事に就いた経緯からお話しさせていただきます。きっかけはうつ病を発症して精神科クリニックに通院し、主治医の勧めでデイケアに通い始めたことです。その時に(創)シー・エー・シー(以下C.A.C)を知り利用を始めました。しばらくして兵庫障害者職業センターにて職業評価を受け、支援してもらうことになりました。その後C.A.Cを通じて仕事の紹介がありました。迷いましたが働くチャンスと思い承諾しました。雇用前に実習し、その後採用していただきました。働けるようになって良かったことは、何より親が喜んでくれたことです。働くのは7~8年ぶりで続けていけるか心配でしたが、働けて本当に良かったと思っています。働いていて大変なことです。新しい環境に慣れるのに時間がかかることです。初めの頃は毎日のようにミスの連続でした。それでも上司に報いたい一心で努力しました。休まないよう健康管理にも気をつけています。



C.A.Cで役に立ったことですが、職場での礼儀作法、苦手なことに挑戦していく勇氣、仕事に対する姿勢です。今まで言われた事だけやっていたらいいと考えていましたが、働くようになり、どんな些細なことでも気づいたらすぐ実行に移すようになりました。「働きたい」と思っている皆様へ一つ言えることは、働くには努力、忍耐、臨機応変な対応、上手な人間関係の構築、これをなくしては難しいと思います。頑張り続ける限り必ず結果はついてきます。常に気



持ちを切らさず、何が何でも働くだという強い意思を持ち続けてください。

(C.A.Cより)

Aさんは、在職中にうつ病にて退職、通院しながらしばらく自宅療養されておりました。少し意欲が出てきたころにデイケアを利用しながらリハビリを行い、働く準備をしたいと希望されC.A.Cに来られました。職業準備性を整え、ビジネスマナーや人間関係の練習を行いながら、その間兵庫障害者職業センターの職業評価を受け、雇用前実習ではジョブコーチ支援も受けました。このように支援機関を利用すると、支援者が職場実習に同行し、本人が仕事に慣れるよう業務や人間関係のサポート、そして会社の方の心配や疑問にお答えすることができます。

Bさんの事例

次はBさんの体験談です。

私はIT関係の仕事をしていましたが、当時会社ではメンタルヘル스에支障をきたす人が多くいました。しかし、それは全くの他人事と思っていたので、自分が発病した際には「まさか自分が」と愕然とした思いでした。統合失調症と診断されました。初めはほとんど外出することが出来ず、家の中でただ呆然と過ごしていました。通院も中断してしまいました。転機が訪れたのは、貯えを使い果たした時、市役所の相談員の方と相談し、まず生活保護の申請をし、心療内科へ通院できるようになりました。それから徐々に体力を取り戻し、精神科デイケアを利用する事になりました。しばらく利用を続けた後にデイケアのスタッフと話し合い、C.A.Cに通うことになりました。頑張って通ううちに、職場実習に行くことになりました。以前やっていた仕事ということもあり、実習後雇用していただきました。週4日、1日6時間で働き、とてもやりがいのある仕事で、勉強になりました。ただ行政の期限付き雇用でしたので、しばらくそこで自信をつけた後、民間会社の就職面接を受け、今私が就業している会社に就職しました。今までを振り返り、色々な方のサポートがあってここまで来る事ができ、お世話になった皆さんには本当に感謝しています。それからサポートして頂いた方々の「信頼」を得る



ことが大切です。そしてタイミングが合えば、チャンスを見逃さず一歩踏み出すことです。改めて、サポートして頂いた方々にお礼を申し上げたいと思います。

(C.A.Cより)

Bさんも、Aさんと同じように雇用前、雇用後にもC.A.Cのスタッフやジョブコーチの会社訪問支援を受け、働く中でのご本人の悩みや会社の方の相談などは、支援者を介して調整させていただきました。お2人とも、働き続けてもう5～6年になります。

雇用された企業の方の声

次に当事業所を利用された方を雇用された企業の方の体験談をご紹介します。

1) 製造会社の社長様からのメッセージです。

私は具体的に精神障害に対する理解はまったくゼロでした。そこでC.A.Cを見学させて頂いたのです。精神障害とはどういう事とか、その人達が働くに向けてどういう事をされているかを初めて聞きました。ここにいられている方は非常に真面目でいろいろな事を自分で抱え込んで、病気にかかっているのではないかと思いました。そのときにこういう場所があったら、生き生きと働けるのではないかと思いました。そして当社に実習に来ていただき、



製造の補助をできる範囲のなかでやってみようという事でチャレンジし、雇用へつながりました。本当にこの病気がもっと世の中に正しく理解され、それが皆さんの雇用と御活躍の場につながっていったら本当にいいなという気持ちを持っております。

2) 服飾メーカーの部長様からのメッセージです。

以前は障害者雇用にあたり、ハローワークで紹介してもらったりしましたが、なかなか上手くいきませんでした。そんな中、C.A.Cを紹介してもらい就労支援事業というものを知り、1名の職場実習を始めました。現在は社員となり、商品のラベルつけ、顧客名簿の管理というとても重要な仕事をしてもらっており、大変真面目に取り組んでもらい助かっています。また、C.A.Cのスタッフは実習の方と一緒に仕事に入って下さったり、きめ細やかなケアで感謝しています。受け入れる企業としては、対応の仕方に悩むところですが、社風や業務内容と人材のマッチングが重要だと思います。そして、ご本人の努力はもちろんですが、ジョブコーチのサポートも重要だと思います。C.A.Cのようにサポートしてくれる就労支援があることを多くの皆様や多くの企業に知って頂きたいと思っています。



精神障害のある方を雇用するうえでのポイント！

- 1) 新しい職場は緊張や疲れを感じやすく、短時間勤務から始めることで、徐々に慣れ、力を発揮することが出来ます。
- 2) 仕事の指示は、①具体的な内容で（「早くしてください」ではなく「11時までにしてください」）
②わかりやすいようにマニュアル化（見える化）する。
③できていることを評価する（「丁寧にできていますね」等）。
強い口調や叱咤激励ではなく、ごく普通の穏やかな口調の方が不安なく受け止めることができます。
- 3) 就労支援機関のサポートを利用していただくと、障害の特性に合わせ、本人が働き続けるための支援を受けながら、無理なく雇用することができます。

詳しくは、兵庫県雇用開発協会で発行された『精神・発達障害者雇用支援ガイドブック※』をぜひご覧ください。

北岡 祐子

【プロフィール】

医療法人尚生会 就労移行支援事業（創）シー・エー・シー 所長

* 精神保健福祉士（精神障害のある方への生活支援、就労支援の仕事に携わり25年）

* 一般社団法人兵庫県精神保健福祉士協会 会長

【著作】

- ・「暮らす・働く・日々がSST」前田ケイ・安西信雄編『本人・家族のためのSST実践ガイド ころの科学』日本評論社。
- ・「職場開拓と職場定着支援－精神障害をもつ方の一般就労を実現するために－」『精神科臨床サービス 第9巻2号』星和書店
- ・「就労移行支援事業所における支援の実践」『新版 就業支援ハンドブック』独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構。
- ・『精神・発達障害者雇用支援ガイドブック』一般財団法人兵庫県雇用開発協会 編集委員

